

両大戦間期日本思想史再考

近年、2014年に勃発100年を迎えた第1次世界大戦に、あらためて関心が集まっています。第1次世界大戦という現代史の起点からその後の歴史を捉えなおそうという動向が顕在化しつつあるのです。人類史上初の総力戦として戦われた第1次世界大戦は、国際秩序、地域秩序、国内秩序の各レベルで、深甚な変容をもたらしました。各レベルでの変容は相互に絡まり合いつつどのように起こったのか、それは当該期日本の思想／運動にどのような展開を促したのか、その展開はいかに次の時代を準備したのか、といった点が、日本研究のアクチュアルな課題としてあらためて浮上してきつつあります。そのことも踏まえ、文学研究科グローバル日本研究クラスターは、大阪大学からの支援を受け、オスロ大学のディック・ステゲウェルンスさんの特任准教授として迎え、共同研究を行うことにいたしました。このたびの国際ワークショップでは、今回の報告と同題の博士論文をお書きになったステゲウェルンスさんのご報告を核としつつ、気鋭の若手研究者黒川伊織さん・福家崇洋さんを報告・コメントに迎えて、両大戦間期の日本思想史について再考する機会を持ちます。現代をその起点から問いなおす知的作業に、多くの方が加わってくださることを期待しています。

趣旨説明

宇野田尚哉 (大阪大学文学研究科准教授)

報告

ディック・ステゲウェルンスさん (オスロ大学人文学部准教授)

新世界への調整：
戦間期日本知識人の対外認識

報告

黒川伊織さん (神戸大学国際文化学研究科協力研究員)

1920年代東アジアの思想空間：
国際共産主義運動と
ワシントン体制の相克

コメント

福家崇洋さん (富山大学人文学部准教授)

リプライと討論

2015年

12月19日[土] 13:00-17:00

大阪大学会館 会議室

<https://55099zzwd.coop.osaka-u.ac.jp/daigaku-hall/>



主催：大阪大学文学研究科「グローバル日本研究クラスター」

連絡先：宇野田尚哉 (unoda@let.osaka-u.ac.jp)